

連載 — 心の悲鳴に耳を傾ける —

教職員の精神疾患による病氣
休職者数5078人、体罰・交
通事故・わいせつ行為等の不祥
事による懲戒処分または訓告等
を受けた教職員9494人(文

部科学省「平成25年度公立学校
教職員の人事行政状況調査につ
いて」より)。その他「身体疾
患を理由に休職している教職
員」のなかにも、過度なストレ
スが様々な身体症状となって現
れている場合もありますし、数
字に現れていない不祥事が存在
することも否定できません。

■「行動化」への対応

前述したように、過度なスト
レスの「内在化」(内にため込
む)↓身体化(心身症)という
メカニズムで問題が起る場合

りの傾向が高いようです。しか
し、そのような関わりだけを行
っても十分な効果を得ることは
難しく、金銭面の負担に加えて
不祥事に対する謝罪という負の
連鎖を生じることになります。
このような負の連鎖を防止す
るためには、問題を起こした教
職員の話によく耳を傾け、「問
題に至るまでのプロセス」を充
分に把握し、分析集計(学校現
場↓教育委員会↓文部科学省)
することと同時に、効果的な「心
のケア」のあり方を体系化して
いくことが重要であると思われ
ます。習癖や性癖という言葉で
片付けてしまっただけに進むこ
とはできません。

■ストレスと問題行動

人間は不快な状況に直面した
時や肉体的な衝動を満足させられ
ない時、「自分を守ろうとして」
無意識的に様々な手段をとると
されています。これは「防衛機
制」と呼ばれるものです。カウ
ンセリングや心理療法(精神分
析・フロイトの研究から考えら
れたもの)で用いられる用語で
す。

人間は過度のストレス状態に
ある場合にも、この防衛機制を
無意識に働かせます。心の中に
抑圧された衝動や葛藤が、様々
な身体症状となって現れること
を「身体化」といいます。この
ようにストレスや悩みが身体の

病氣につながることは、一般的
にもよく知られるようになって
きました。これらは、心身症と
いわれることもあります。それ

問題への指導・懲罰だけではなく
丁寧な「プロセス」の聞きとりを

学校と教委が連携するための視点

に対し、「行動化」は過度なス
トレスの外在化(外に表出する)
↓行動化というメカニズムで問
題行動(不祥事等)が起る場
合があります。

筆者が見聞きする範囲では、
「行動化」の場合、その問題を
起こした教職員への対応とし
て、指導や懲罰に特化した関わ

しかし、この様なことが語ら
れ議論されることは意外と少な
いのが現実です。それ故に現時
点では、問題の予防システムや、
問題を起こした教職員に対する
十分なケアシステムが構築され
ているとは言いきれません。

筆者は、学校現場や教育委員
会がさらに、このようなことを
十分考慮して、予防や対応に当
たってくださることを願ってい
ます。そして前述のように、心
身症やうつ病を代表する「内在
化・身体化」された精神疾患だ
けではなく、教職員の「外在化
・行動化」による問題行動に対
する予防・サポートシステムの
構築が急務であることについて
も、現場や教育委員会のご理解
が得られれば幸いです。

執筆 鈴木隆広(すずき・たか
ひろ) 日本教職員メンタルヘル
スカウンセラー協会会長、神奈
川県内(市町)教育委員会 教育
相談スーパーバイザー 他